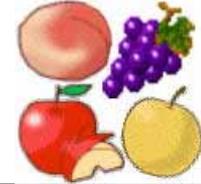


平成22年度 果樹情報 第12号 (平成22年9月10日)



福島県農林水産部研究技術室

- 1 気象概況（8月4～6半旬：果樹研究所）
平均気温は、平年と比較すると4半旬が27.0 で1.9 高く、5半旬が28.5 で3.9 高く、6半旬が27.9 で3.6 高く経過しました。この期間の降水量は16.2mmで平年の19%でした。
- 2 土壌の乾燥状態（果樹研究所）
9月1日現在の土壌水分（草生栽培リンゴほ場：無かん水）は、深さ20cm、40cm、60cmともかなり乾燥が進んでいます。
- 3 生育概況（9月1日現在：果樹研究所）

表1 主要品種の果実肥大
(暦日比較 果樹研究所9月1日調査)

果実肥大	ナシ		リンゴ	
	豊水		ふじ	
	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	68.8	79.8	69.4	77.8
平年比(%)	94	96	98	101

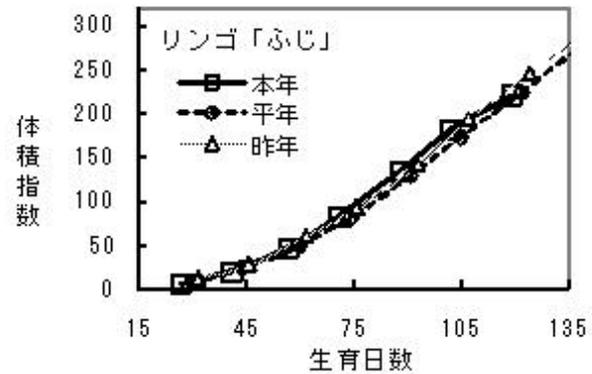
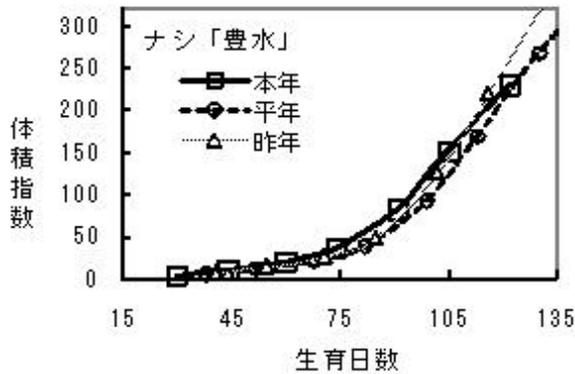


図 主要品種の果実肥大（果実の生育日数比較 果樹研究所9月1日調査）

(1) モモ

「川中島白桃」の収穫始めは8月27日で平年より2日遅れました。「ゆうぞら」の収穫始めは9月1日で平年並みとなっています。

表2 モモの主要品種の収穫期と果実品質（果樹研究所調査）

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			RM示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
川中島白桃	8/27	8/25	8/17	未	8/28	8/20	未	8/31	8/25	未	306	367	未	12.7	12.8
ゆうぞら	9/ 1	9/ 1	8/25	未	9/ 5	8/31	未	9/ 9	9/ 7	未	292	397	未	12.6	12.3

未は未確定

(2) ナシ

「幸水」の収穫始めは8月30日で平年より3日遅れました。

「豊水」の果実肥大は、暦日で比較すると平年比94～96%とやや小さい状況ですが、果実の生育日数による比較では平年並みとなっています。

表3 ナシの主要品種の収穫期と果実品質（果樹研究所調査）

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			R M示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/30	8/27	8/24	未	9/ 2	8/28	未	9/ 8	8/31	未	360	432	未	12.5	12.2

未は未確定

(3) リンゴ

「つがる」の収穫始めは8月31日で平年より2日遅れました。

「ふじ」の果実肥大は、暦日で比較すると平年比98～101%とほぼ平年並みですが、果実の生育日数による比較では平年並みの状況です。

表4 リンゴの主要品種の収穫期と果実品質（果樹研究所調査）

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			R M示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
つがる	8/31	8/29	8/26	未	9/ 4	8/27	未	9/ 9	8/31	未	288	239	未	12.6	13.6

未は未確定

4 栽培管理上の留意点

(1) 土壌の乾燥対策

ア かん水

ほ場の乾燥状態を確認し、乾燥している場合には積極的にかん水を実施しましょう。

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度です。1回のかん水は25～30mm(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施します。また、保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くすると効果的です。

モモ、ナシ等では、収穫5～7日前からのかん水は、糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めの実施してください。

イ 草刈り、マルチ

草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを実施しましょう。また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) モモ

ア 晩生品種の収穫

晩生品種の収穫始めは、平年並み～2日遅れとなっています。適期収穫に心がけましょう。

イ 秋肥の施用

収穫後は、9月のできるだけ早い時期に秋肥を実施し、樹勢の回復につとめましょう。秋肥は速効性肥料を中心に、窒素成分で7kg/10a程度（あかつきの場合）施用します。

ウ 秋季せん定

若木などで樹勢が強く、徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）に秋季せん定を実施しましょう。秋季せん定は、樹冠内部の徒長枝を中心にせん除しますが、樹冠上部の発育枝は、樹勢を維持するためにできるだけ残すようにしましょう。なお、樹勢が中庸な樹や弱い樹では、葉数確保を優先し、秋季せん定は実施しないか、実施しても最小限とします。

(3) ナシ

ア 「幸水」・「豊水」の収穫

「幸水」の収穫始めは、平年より3日程度遅れました。今後は、「豊水」の収穫が始まりますが、適期収穫に心がけましょう。

また、収穫時の果実温が高いと果肉軟化につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管するように心がけましょう。

イ 秋肥の施用

「幸水」の収穫終了後、9月中旬頃に秋肥を施用しましょう。秋肥は、速効性の窒素肥料により窒素成分で5～10kg/10a施用します。その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも収穫が半分以上過ぎれば果実品質への影響は小さいと考えられるので、できる限り早く秋肥を施用しましょう。

(4) リンゴ

ア 早生種の収穫

「つがる」の収穫始めは、平年より2日程度遅れました。今後の気温の推移に注意し、適期収穫に心がけましょう。

イ 中生種の収穫前管理

各品種の生育状況に合わせ、摘葉や玉回し等、着色管理が遅れないように注意しましょう。気温が高い日が続く場合は、日やけ果の発生が懸念されます。摘葉を実施する際には、最初に果実に直接付着している葉を中心に軽めに行い、その後気温の状況に注意しながら摘葉を進めます。

(5) ブドウ

ア 適期収穫

収穫時期は、樹勢や着房数、房の大きさに影響されます。果皮色や食味等について総合的に判断し、適期収穫に心がけましょう。収穫は、果実温の低い早朝に実施しましょう。また、収穫～調製の際には、脱粒したり、花粉が落ちないように果房を丁寧に取り扱いましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ褐斑病

昨年、本病の発生が多かった園や、既に発生が認められる園では、9月上旬の防除を徹底しましょう。

イ モモせん孔細菌病

発生がやや多い傾向があります。越冬病原菌密度の低下を図るため、9月上旬～10月上旬の秋季防除を徹底しましょう。

ウ ナシ黒星病

発生は平年並み～やや多い状況です。越冬菌密度の低下を図るため秋季防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア ナシヒメシンクイ

第3世代以降はナシの果実への寄生が増加します。例年、ナシの中晩生種で果実被害が多い園では、9月1半旬頃までの防除を徹底しましょう。また、シンクイムシ類の被害果を発見したら必ず摘除し、水づけ等により適切に処分しましょう。

イ モモハモグリガ

第6世代の防除適期は、9月3半旬～4半旬頃と予想されます。園地の状況を確認し、密度が高いモモ園では越冬密度を低下させるため防除を徹底しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。